

インドネシアのソブリンウェルスファンドに日本の投資家が投資すべき5つの理由

1. 強力な法的基盤を整えた専門的な営利目的組織

インドネシアのソブリンウェルスファンド、インドネシア投資庁（INA）は、雇用創出に関するオムニバス法に基づいて設立され、INAへの政治的な干渉や政権交代の影響から隔離される法的確実性があります。

INAとその傘下のファンドはインドネシア政府から独立した形で、専門的に、高い透明性を持って運用されている営利目的組織です。

ファンドは監査委員会と取締役会からなる、二層制で運営されます。監督委員会は財務大臣が議長を務め、国有企業担当大臣と議会の協議を経てインドネシア大統領によって正式に承認された3人の独立した専門家を配置しています。取締役会のメンバーの多くが投資の専門家であり、大統領に直接報告が行われます。

2. 投資の意思決定と損益管理におけるフルオーソリティ

出資者は投資の意思決定と損益管理について全権限を持つことができます。

投資方針は委託だけでなく、共同出資者に合わせてグリーンフィールド、ブラウンフィールド、成熟市場など柔軟に選択できます。

様々な層の投資家に合わせて、共同で柔軟に投資テーマ、ポートフォリオを構成していきます。

また、公正な市場評価を維持したまま、国有企業と優先的に資産の移転や取り引きを行えます。

3. 国際投資のベストプラクティスの採用

国際投資のベストプラクティスを採用します。

必要に応じて国内だけでなく海外の関連当局でもファンドを設立します。

プロの投資顧問による運用が義務化されています。

2021年第二四半期より、データルームと利用可能資産評価が利用できます。

特定の資産についてはリスクとリターンをINAと共有します。

4. インドネシアの戦略的資産への投資機会

テーマ別ファンドに移換される最初の資産は、主に有料道路、空港、海港を中心としたブラウンフィールドのインフラプロジェクトになります。

有料道路では安定したブラウンフィールド資産から将来的に大きな価値が見込めるグリーンフィールド事業に至るまで、高い可能性を秘めた投資機会が多くあります。

空港では資産価値3億2,000万米ドルを誇るスカルノ・ハッタ国際空港-第4ターミナル開発への投資機会があります。他のブラウンフィールド事業と組み合わせた投資も可能です。

コンテナ埠頭では統合開発が進められています。完成すると世界でトップ10に入る規模のターミナルになる見込みです。

その他、ヘルスケア・ツーリズム、ハイテク分野など大きな成長が見込める分野への投資機会があります。

5. JBIC(国際協力銀行)はINAに40億ドルの投資を決定

JBIC、国際協力銀行はすでにINAに40億ドルの投資を行うことを決定しています。

米国国際開発金融公社(USIDFC)も20億ドルを投資することに署名しています。また、アブダビ投資庁(ADIA)が出資を予定しているなどINAは世界中の投資機関から大きな注目を集めています。

日本の皆様のINAへのサポートを心よりお待ちしております。